

「前衛画家たちの中に息づくルネサンス、そして祖父・杉全直が教えてくれたこと」

No.1

福沢 一郎とルネサンス期のフレスコ壁画



1930 年後半、シュールレアリスムな絵を描いていると特高警察に捕まったりして大変だったので、古典を隠れ蓑にして自分たちの表現を模索していました。

私は、いかなる状況下でもシニカルなユーモアや皮肉をこめた社会風刺の作品を描き続けました。

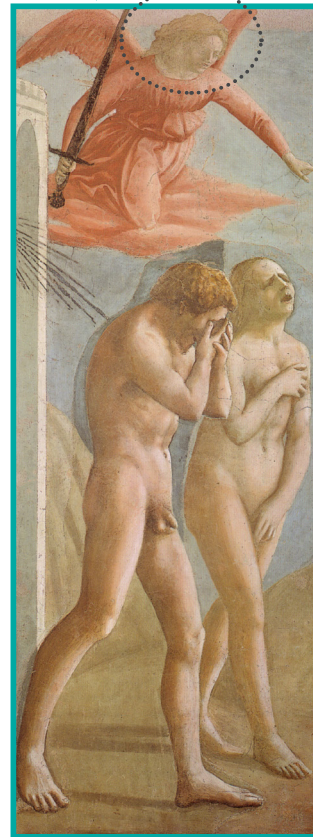


福沢一郎
(1898-92)

福沢一郎 「女」 1937 年
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館

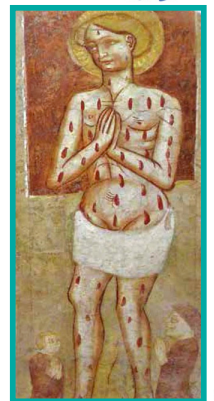


全体はまさにイヴ！
でも顔は天使から借用！？



マザッチョ「楽園追放」1424-25 年
プランカッチ礼拝堂 フィレンツェ

この僕の「アダムとイヴ」は、初期ルネサンスの幕開けとされる人体表現なんだ。



↑マザッチョ以前の裸体表現



マザッチョ
(1401-28)

ルネサンス期、絵画革命を起こした大折の天才画家

私は「女」を見たとき、とてもピエロ・デッラ・フランチェスコっぽさも感じました！

僕は長い間、忘れ去られてたんだけど、ピカソらキュビズムの人たちによって再評価されて、復活。今ではルネサンスを代表する画家の一人だよ。



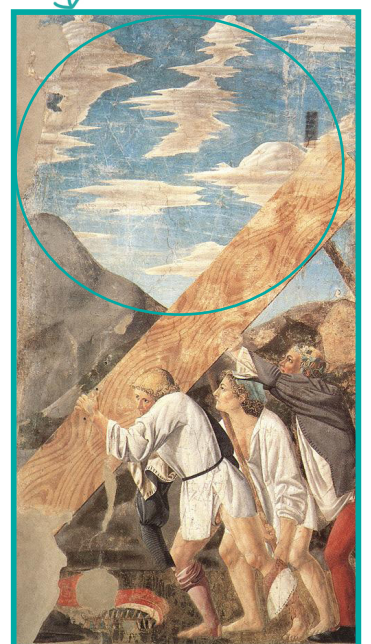
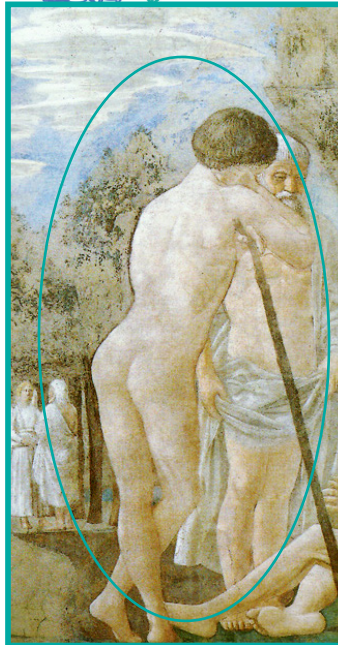
遠近法マニア
画家というより
ほとんど数学者
永遠に時が
止まったような
画風

ピエロ・デッラ・フランチェスカ
(1412-1592)

私はヨーロッパ游学時代、マザッチョやピエロの絵を直に見て大変感銘を受けたよ。ピエロの人体さえ球や円錐など「幾何学図形の集合のよう」に描きながら、彼独特の「詩情で満ちている」ところがすごい。



このウドの大木っぽい
体とか
空と雲の感じとか!!



ピエロ・デッラ・フランチェスカ
「聖十字架伝説」より 1447～66 年
サン・フランチェスコ聖堂 アレッツォ

「前衛画家たちの中に息づくルネサンス、そして祖父・杉全直が教えてくれたこと」

No.2

すぎまた ただし

杉全直とルネサンスの巨匠たち



僕は当時最先端の絵画だったシュルレアリスムに魅かれ、それを牽引する福沢さんにとっても影響を受けました。同時に古典も尊重するアカデミックな一面もありました。

元ネタ

宮廷的で装飾的な肖像画

ピサネロ

(1395年頃 - 1455年頃)

15世紀イタリアで活動した国際ゴシック様式を代表する画家の一人。洗練された細部表現を得意とし、素描は大変な人気を博した、記念メダルの作家としても知られる。

ピサネロ
「エステ家の公女」
1435-49年
ルーヴル美術館 パリ



影響は一目瞭然！でも…

杉全直 「沈丁花」 1942年 うらわ美術館



一見するとピサネロによく似てるけど、「沈丁花」は実はとても和風で、深い水の底に沈んでいくような底知れない暗さが印象に残る…



ボッティチェリの「三美神」に影響を受けた絵も描いている



ボッティチェリ「春」(部分) 1478-82年
ウフィツィ美術館 フィレンツェ

「三美神」は古代ギリシア・ローマ時代から人気のテーマだけじゃなく、六百年後の日本でも描かれるとはね

ボッティチェリ



僕のは優雅に踊るといふより高速で回転している風ですね



杉全直「樹下」1944年
西宮市大谷記念美術館

逆さに落ちる一輪の花は若くして失われた命を表してるよ。僕の兄と弟は終戦の前の年に立て続けに戦死してしまったんだ。



花とりんご、実は「置かれている」ようにも見えませんか!?



カルロ・クリヴェッリ
「聖エミディウスのいる受胎告知」 1486年
ナショナル・ギャラリー ロンドン

この描き方、カルロ・クリヴェッリを思い出す!

異空間にさりげなく象徴的な物を描き込むというのは、古典的手法でありながらシュルレアリスム的でもある気がする!!



この絵は長い間、自宅の押入れの奥の方にしまってたんだ。

お金に困ったら売っていいよ、と家族には言ってたよ



なんだろうね

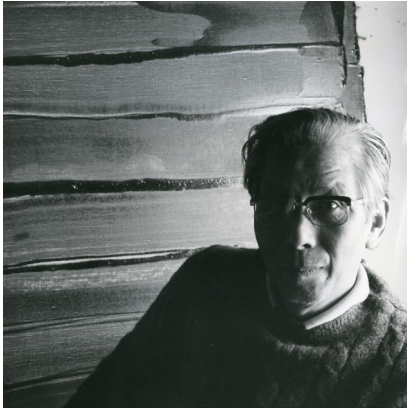
「前衛画家たちの中に息づくルネサンス、そして祖父・杉全直が教えてくれたこと」

No.3 祖父・杉全直が教えてくれたこと



私は隣に住んでいた祖父が絵を描く様子を見ながら育ちました。女子美術付属高校に入ってから絵に関する大切なことをいろいろ教えてくれました。

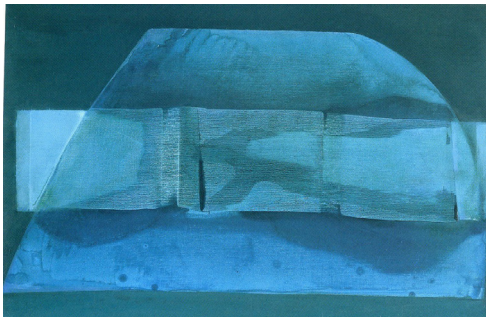
<杉全直 略年譜>



1914年 東京に生まれる。姫路で育つ
1933年 東京美術学校入学
1939年 美術文化協会の設立に参加。
満洲で兵役につく。
1944年 兄、弟が戦死。結婚
1945年 長男・泰誕生
1968年 多摩美術大学油画科教授
1977年 東京藝術大学油画科教授
1986年 勲四等瑞宝章受賞
1994年 死去



「轍 (わだち)」1938年 東京国立近代美術館



「帯 c」1981年



「きっこう」1962年
第31回ヴェネチア・ビエンナーレ出品
兵庫県立美術館

<絵の心得 5ヶ条>

- ① まずとにかく大切なのはデッサン。
デッサンの研鑽を積むならギリシア
彫刻の石膏像を描け。



- ③ 静物を描く時、大事なことは物の重
みを描くこと。セザンヌの描く物の
底の表現を見よ。



- ② デッサンで手本にするなら
ルネサンス期の画家。



- ④ 動物や草花を空想で本物らしく描く
ことは厳禁。本物を見ながら描け。
(空想なら空想画として描け)

いつも本当に穏やかで優しい祖父で、絵のことも少しずつわかりやすく教えてくれました。

- ⑤ 空想画や抽象画などは「目に見える
物全てが自在に描ける」ようになる
まで描いてはならない



おじいちゃんそんな日は私には来ないみたい...